

# 翻訳ってなんだろう

～翻訳と編集の舞台裏から～

## プログラム

進行 山田佳子

●基調講演	1:10～1:45	館野哲	日本における韓国文学翻訳の現在と未来
●翻訳の舞台裏	1:45～2:45	渡辺直紀 吉川凧 きむ・ふな	文学評論の翻訳について 詩翻訳の怖ろしさ 韓国語ネイティブの日本語翻訳
休憩	2:45～3:00		
●編集の舞台裏	3:00～4:00	関正則（平凡社） 中川美津帆（フリー） 西泰志（文藝春秋社）	翻訳編集の楽しみと悩み 読者と翻訳者のあいだに立って 編集者から見た良い翻訳（者）とは
●全体座談会	4:00～5:00	司会 波田野節子	



館野哲（たての・あきら）  
中国大連生まれ。東京都庁定年退職。  
多数の翻訳により2001年に韓国文化  
観光部出版文化功労賞、2013年に大  
韓出版文化協会感謝杯を受賞



関正則（せき・まさのり）  
広島県生まれ。平凡社で、平凡社選書、  
平凡社ライブラリーなど、翻訳書・人文  
書の編集に携わる。『金石範作品集』『日  
朝冷戦構造の誕生』などの編集を担当



渡辺直紀（わたなべ・なおき）  
武蔵大学教授。翻訳に『闘争の詩学』『韓  
国の近現代文学』など。金哲の文学評  
論『腹話術師たち』近刊



中川美津帆（なかがわ・みつほ）  
出版社勤務を経てフリー編集者に。『ど  
きどき僕の人生』『ハル 哲学する犬』  
ほか数々の韓国文学の翻訳編集を手が  
けている



吉川凧（よしかわ・なぎ）  
大阪生まれ。文学博士。著書に『朝鮮  
最初のモダニスト鄭芝溶』『京城のダ  
ダ、東京のダダ』、翻訳に『申庚林詩集』  
などがある



西泰志（にし・たいし）  
1974年生まれ。藤原書店で韓国・朝鮮  
語書籍を含む翻訳出版に携わり、2012  
年より文藝春秋に勤務。現在、文春新  
書・文春学藝ライブラリー編集部



きむ・ふな  
韓国生まれ。日本語訳書に『菜食主義  
者』、韓国語訳書に津島佑子『笑いオ  
オカミ』、著書に『在日朝鮮人女性文  
学論』がある



波田野節子（はたの・せつこ）  
新潟市生まれ。韓国近代文学を専攻し、  
翻訳に『無情』『金東仁作品集』『オジョ  
ンヒ小説集』などがある

日時 2014年12月13日(土) 午後1時～5時

会場  新潟県立大学1313大講義室

参加  
無料

主催：新潟県立大学 025-270-1300(代)

後援：韓国文学翻訳院／駐新潟大韓民国総領事館

連絡先：山田佳子研究室